

第33回第5回社会教育委員会議意見整理表(案)

教育委員会社会教育部
社会教育課

3. 高齢化社会の現状と問題点 (2) 高齢化社会の問題点と課題 ①問題点

	委員名	意見等	意見の方向
1	嶋田委員	僕の周りでも、僕も40前ですけども、結婚しない人がたくさんいるんですね。なぜ結婚しないかという、やはりお金がないと。で、したからといって給料が取られて、子どもができて、実際お金がないというのが一番の原因だと言っていました。何をやるにもお金がかかるというところで、先ほどの資料にもありましたように、2060年には1人が1人を支える時代ということになると、多分こういう社会教育というか、ボランティアとか、そういうのを言っている時代ではなくて、もっと大変な時代がやってくるのではないかと。	生産人口の減少
2	加堂議長	そうですね。少子化、子どもを増やすということは枚方市だけで終わってしまうことではなくて、日本の大きな課題だと思いますし、確かに学生を見ている、なかなか結婚はできないような感じだと思いますね。	
3	志保田委員	問題点2、地域コミュニティの衰退ということは確かにありまして、私もいわゆる市街地に住んでおりまして、私の住んでいるマンション全体が自治会に入ることを拒否しております。ですので、餅つきであるとか盆踊りであるとか、そういったものは全く声かけもされていない状態であります	
4	加堂議長	先ほどの話で、コミュニティの話ですね。自治会の加入率が、枚方市はまだ70%台をキープしているということで、この数字が高いのか低いのか、中身を知らないといけないんですけども、若干年々減っているということは大きな問題ですね。マンションでほとんど参加する人がいないということが、少しずつ出ていくとそれがもっと増えていくわけですからね。そういう意味では、もっと問題にしたいと思えますけどね。	
5	服部委員	高齢者に限っていいですよ、果たしてそんなに衰退しているのかなという感じはしているんですよ。地区のほうを見ても、かなりいろんな面で高齢者が活躍しておられる。朝、子どもの通学を見守ったりとか、いろいろな面において。若い人は確かに無関心かもしれないけれども、年配の方については果たしてそうなのかなと。推測ですけども、そんな感じは持っているんです。高齢者に限ってコミュニティどうなんだと言われると、ちょっと違うのではないかとこの気がする。衰退にはなっていないのと違うかなという感じはしているんですけども。	
6	石塚副議長	枚方市が地域コミュニティの衰退があまり見られないということがあったんですけども、初め子ども会しかなかったんですね。何年かたって、5年前ぐらいでしょうか、老人会ができて、子ども会の活動に老人が協力する。ですので、季節のお餅つきはもちろんのこと、豆まきのときは高齢者の方が鬼になって活動されたりしていますし、七夕ですとかクリスマス、そういう行事がどんどん増えていきまして、高齢者の方と子どもたちのコミュニケーションの場がすごく増えていっています。そうしますと、マンションでの挨拶というのが当たり前になってきて、エレベーターに乗りましたら、どこでもこんにちは、こんにちはという声が聞こえるようになりましたし、すごくいいコミュニケーションのコミュニティができていないかと思っています。	地域コミュニティの衰退
7	西田委員	ひとり暮らしが多くなって空き家も出てきていますので、もうほんとうにどこを見てもひとり暮らしが多いんですね。うちだけぐらいが二世帯で生活しているみたいで、子どもの声は一切しませんし。	
8	石塚副議長	地域のコミュニティがよくなってきますと、防災の面にもすごく役に立ちます。あそこのお宅にはちょっと足の不自由な方が住んでいるですとか、いろんなことがわかってくるんですね。それを今、防災に役立てようというような活動になってきているんですけども、地域のコミュニティというのはすごく大事なというのは実感しております。	
9	服部委員	13ページのところで、少子高齢化社会がもたらす問題点というふうになっていて、問題点の2のところで、根底を支えている地域コミュニティの衰退となっているんですけども、少子高齢化社会だから地域コミュニティが衰退してきたのかなという疑問かなという感じで、最初ちょっと言ったわけです。むしろ、皆さん方おられて恐縮ですけども、中間層あたりのところに問題があるのと違うかなと私は感じています。	
10	西田委員	中間層というより全体ですよ。皆さんの意識が、コミュニティの意識がないんです。つながりがなくなってきている。地縁というのか。子どもたちでやっとなりが支えられているけれども、それ以上になるとつながりがだんだん薄くなってきている。お年寄りだけでもない。お年寄りもそうですけれども、成人層もそう、全体ではないかな。子どもたちもちょっと成長するともう塾、塾で、つながりが薄れていっているし。社会全体の社会教育……。	
11	服部委員	先ほどハイキングでいわゆるお母さん以下が来ないですよ、子どもが来ないですよというのは、勝手な解釈かもわからないけれども、おそらくその年代のお母さんとかお父さんが反対しているのと違うかなと。そんなしんどいところ歩くのやめときやと。高齢者の人は自分で、仕事もないものだからどんどん来られるけれども、たまの日曜日に何でそんなところに行かないといけないのか、寝ときとか、その辺の雰囲気があるのと違うかなと。これは根拠はないので、何とも言えませんが、そんな感じがしています。見事に、ウォーキングの分野についていうと来ないですね。来られませんね。	つながりの希薄化

	委員名	意見等	意見の方向
12	國光委員	地域コミュニティの衰退ということが今ちょっとお話に出ていたと思うんですけども、私がいる楠葉西中学校、楠葉西小学校のコミュニティ協議会にずっと参加しているんですけども、なかなか盛んに活動はやっています。月1回協議会、夜の会合をやっているんですけども、ほぼ全員毎回集まってきて、結構盛んにやっている地域だなと思っているんですけども、ただよそから移ってこられた校長さんとかに聞いたら、かなり地域によって温度差があるんだなということは課題だと思っています。それと、ここにも出ていますが、本校区の楠葉西小のコミュニティにしても、担っておられる方が、わりとずっと同じなんです。かなり年配の方で、もうずっと引き継ぎやっておられる。次の世代への引き継ぎというんですか、その辺が今後の課題なのかなと思います。ただ、コミュニティ等については、いろいろと市の支援、財政的な支援とかそういう部分もありますので、運動会とかもほんとうに活発だし、そこには子どもも大勢参加して、すごく盛り上がっている地域かなとは思っています。そういう中では、年寄りも子どもも一緒に活動していますし、そうやって成功している地域もあるのかなと思っています。	
13	西田委員	確かに活動されているように見えると思うんですけども、その人たちが活動するために、非常にボランティアで支えているんです。大変な支えです。皆さん見守りで立っておられると思うんですね、高齢者の方。なかなか協力して下さる人というのは少ないです。実際は、でも少しずつ活動は増えてきていますけれども、もっとボランティア精神の育成といいますか、それを育てていかないと、なかなかそういう活動は盛り上げていくことはできないなど。	
14	服部委員	例えばウォーキング、ハイキングなんかするんですけども、ほとんど高齢者です、参加するのは。若いお母さんとかお父さんが子ども連れてという参加者はほとんど見られない。だから、逆に高齢者の方がいろんな分野で活動をしたいというか、求めているというのは、それはわかるような気がします。ちなみに、先日もウォーキング、約100人の参加があったんですけども、40未満の人はゼロです。ほとんどが60から70以上の人です。ほかの京阪とかああいうのがやっているのを見ても、子ども連れはほとんど来ないですね。	
15	西田委員	そうですね。私も退職してひとりになったとき寂しいですね。隣とか裏の人なんか全然知りませんので、声かけもしないですね。だから、仕方なくいろんなボランティア活動に出て、人とのつながりを求めているんですけども。	
16	中村委員	子どもを含むような行事もあります。コミュニティ絡みで。そのときには、やはり子どもが来る。そして、その子どもを含む保護者、それからその周りの方が高齢者の方も来られます。毎年地域で、うちの校区の場合、取り組んでおられる行事は幾つもあるんですけども、その中に、子どもはほとんど来ないんですけども、地域の高齢者の方がこれほど来られるんだなと思うような行事もあるんですね。	
17	西田委員	私はボランティアの団体に入っているんですけども、遊びは皆さん、たくさん高齢者の方は来られる。でも、地域を支援するボランティア活動にはなかなか参加してもらえないという現状が、非常に団体で苦労しているところなんですね。それはもうひしひしと、だからマージャンのクラブとかゴルフとか、そういう遊びにはたくさん来られます。会員の方。でも、いざ、例えば子育て支援でこういうところでボランティア活動をお願いしますといたら、希望者が非常に少ないと。だから、それを心配していくのに、ボランティア団体、責任者は苦労しているんですけどね。だから、やはりボランティア精神の啓蒙教育というか、それを小さいときからずっとしていかなければ、成人になってしてもなかなか意識が湧かないですね。私は生きがい創造学園でして、生きがい創造学園はちょうど団塊の世代の人たちが高齢化になった65前後の人たちが60%、今は70%近くを占めますが、そういう人たちは自分の暇な時間を何かに使いたいとかいう意識は持たれているけれども、その人たちのそういう意識を育てていく、つなげていくシステムがないんですよ、市に。私は生きがい創造学園でずっとそれを強調してきたんですけども、市としてもそれを支える次の施策を考えていただきたいということは言っていたんですけども、確かに塊としては団塊の世代の人たちが何かしたい、手持ち無沙汰、元気、でも何していいかわからないという人が多いです。生きがい創造学園を一度見学されたらわかると思うんですけども、540人ぐらい受講していますので、結構たくさんの方が受講しているんですけども、なかなか地域の活動に参加しようという人たちが少ない、そういう現状があります。	つながりの希薄化
18	中村委員	そうですね。地域の行事の中でPTAの担当する行事というのが幾つかあるんですね。うちの学校は特に人数が少ない学校ですので、保護者はもちろん地域に住んでおられるので、PTAとしてもそれに参加しますというときに、役員だけで何とかしましょうではなくて、今年、役員というのはほんとうに少数ですので、学校のPTAとしてかかわっておられる方みんなに呼びかけをして、全員参加というのを呼びかけてくれておられるんです。それによって、今年は役をしたからみたいな形で、この年は参加しますよね。そうすることによって、全員ではないですけども、次の年、もうPTAの役とかからは外れていますけれども、地域の一員としてそこに参加される方というのは、いないわけではなくて、逆に子どもはいろんな行事に参加しますから、それに、去年自分もやったからちょっとわかるみたいな形でまた参加して下さるといって、広がっていないわけです。次へつなげる、そして今年やったことはその次また新しくする人にとってみたら全く初めてのことで不安なことも多い中、少しでも知っている人がそこにいてくれるということの安心感で、またそうしてもらって助かったよねということが次につながるといって形になっていることもあります。そして、地域の行事の中に参加することによって、こんな行事があったのかと。また防災とかになったら愕然と減るんですけども、そこにも、あの人の顔がまたあるわというようなことがつながっていることもあるので、一挙に何かぱっと参加できるようになるということなどはまずないですけども、そういう地道なことというのは、学校からも呼びかけますけれども、学校から呼びかけてどうこうよりも、子どもを通してとか、PTAでやってみてよかったからとか、そういうことのほうが後々つながっていくので、そっちが広がっていくようにしていけたらなと思います。	